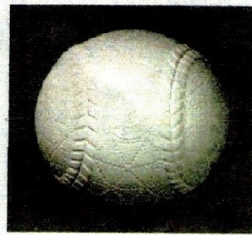


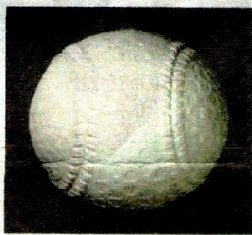
新軟球 飛び過ぎる余波

今年から草野球などの大会で使われる軟式野球のボールが変わった。飛距離が出やすくなったことで、打球が球場の外に飛び出すケースが続出。都会にある球場では特に、周りの建物や人に危害が及ぶ恐れがあり、対応を迫られている。金属バットを禁止したり、ネットを嚴重に張り巡らせたり……。ボールの変化が球場の風景まで変えつつある。

以前の軟式球 中学生用



新しい軟式球



硬球に近い感覚に

これまでの軟式球は、弾力があり、バットに当たる瞬間に大きく変形するため打球に勢いがつきにくく、「なかなか得点が入らない」と言われてきた。2014年の全国高校選手権準決勝では、両校無得点で日をまたぐ延長戦になり、4日目の50回で決着がついたこともある。そこで、長打を増やし、

飛距離10%アップ

攻撃的な試合展開になるようにと生まれたのが、今回の新球。以前より硬く重く、弾みにくいのが特徴で、やや硬式に近いプレー感覚になった。飛距離は10%ほど伸び、打球も速い。軟式と硬式の垣根を低くすることで、中学まで軟式でプレーしていた選手が、硬式の高校野球になじみやすくなる目的もある。これまで「A号」(一般用)と「B号」(中学生用)に分かれていたが、新しいボールは「M(メジャール)号」に統一された。昨年発売され、中学では来年から本格的に使われるようになる。

クラブ厚く ひじ防具も

軟式球が硬く、重くなったことで、野球用品にも影響が出ている。野球のクラブは、ボールの衝撃を吸収する役割があるため、ボールの種類によって革の厚さを変えている。このため、硬式用のクラブがもっとも厚く作られている。軟式用のクラブも今後、厚くなる見通しで、スポーツ用品メーカーのミスノでは昨年12月、新球に対応するため、従来の軟式クラブを少し厚くした新クラブを発売した。ゼット(大阪市)は、体に新球が当たったときの衝撃が強くなったとの声を受け、6月からひじを保護するエルボーガードの販売を始めた。

金属バット禁止、ネット増強

木製バット

「金属バットの使用を禁止します」

東京都練馬区の住宅街にある区立北大東野球場。管理事務所のドアには、こう表示した貼り紙がある。利用者らは10月から、事務所に用意された木製バットを借りなければバットニングができないことになった。

区によると、新球が導入されたからファウルボールが高さ約15分のネットを越

えることが増えた。立ち並ぶ民家の屋根に当たることもあり、区はネットを高くすることも検討しているが、「住民の安全を確保す

ネットを二重構造に



ボールの飛び出し対策の例

球場の外にボールが出ないように設置されている豊島区立総合体育場野球場のネット。今後拡張される

るため」として、応急的に飛距離が出やすい金属バットの使用を禁止した。草野球チームの男性(74)は「せっかくボールが変わったので金属バットで速くに飛ばしたかった」と残念がる。管理事務所によると、10月以降、「木製バットで野球をやりたいくない」と、球場を利用しないチームが増えているという。

苦情相次ぐ

東京・池袋の「サンシャイン60」のそばにある豊島区立総合体育場野球場で

は、「マンションにボールが当たった」「球場横に止まっていたタクシーに当たりそうだった」といった苦情が相次いで寄せられている。区は今年度中に、ファウルボールが球場外に出ないように、ファウルグラウンドにせり出したネットを拡張する。

東京都中央区の区立月島運動場は今年2月、グラウンドを囲むネットの5分ほど手前に高さ約15分のネットを張り巡らせた。区の担当者は「真横に高校がある

ため、危険がないよう配慮した」と説明する。抜本策は、「芯に当たると100mを超え、速くに飛ばせて楽しい」。池袋の球場を利用する草野球チームの男性(34)は新球についてこう語る。ただ、「ボールの行方が気になる現状では思い切りプレーできない」などと、豊島区軟式野球連盟は10月、区に安全対策を取るよう要望した。

全国大会にも出場する強豪チームの選手24からは「本塁打がたくさん出るようになった。安全面を考えると、硬式に対応した広い球場でプレーするのも一案」との声も上がる。全日本軟式野球連盟の宗像豊巳専務理事(67)は「軟式では珍しかった本塁打が増え、野球は楽しいと思ってもらえるボールになった。ただ、場外飛球が今後目立つようであれば、鳥かご状のネットを用意するなど工夫が必要になる」と話している。